

生きていく上で欠かすことができない「食」を未来につなぐ、私たちのまちの新規就農者や農業後継者などを紹介します。

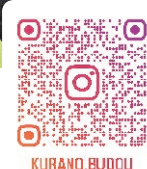
霧島の農業をミライへ



倉野 愛さん 国分出身、国分在住。

就農2年目。くらの農園代表。

営農類型：果樹 経営作目：ブドウ 営農面積：12a



くらの農園
Instagramは
こちら



ブドウ狩りの
予約や
問い合わせは
こちらから

福 山町福山の観光農園で、大好きなブドウを育てるのが倉野愛さんです。家族でブドウ狩りを楽しんだ、思い出の観光農園が事業を廃止すると知り「この農園を引き継ぎたい」と一念発起して、ブドウ作りに汗を流しています。

引き継いでからは、全てが手探り。ブドウ作りは想像以上に奥深く、他の観光農園の先輩たちに教わりながら、生育に励みます。「作業が間に合わず適期に遅れ、理想の品質にならないブドウもありました」と倉野さんは失敗を振り返ります。そこから大切にしていくのは「作業を焦らず、妥協しないこと」。葉や枝、粒の状態を観察し、疑問があれば徹底的に調べる日々を送ります。

「二つのミスがその後の生育に影響します。全工程に納得がいくまで丁寧に取り組むことが、おいしいブドウ作りにつながる」とほほ笑みます。

「昨年のブドウを『綿あめみたいに甘い』と褒めてもらったことがうれしくて。今年もおいしいブドウを届けられるように大切に育てています」

大好きな福山で育てたブドウです

福山町の見晴らしの良い海岸線を望む『くらの農園』は、農園隣の川のせせらぎに涼を感じられる、倉野さんお気に入りの場所。「この川が夜の気温を下げ、日中との寒暖差を生むことで、ブドウのさらなる甘みが引き出されます」と倉野さんは

話します。

そんなブドウは同農園の直売とブドウ狩りのほか、国分じょうもん市場でも購入できます。農園では時季ごとに旬の品種を楽しめる試食もできるので、お気に入りのブドウを見つけてみては。

